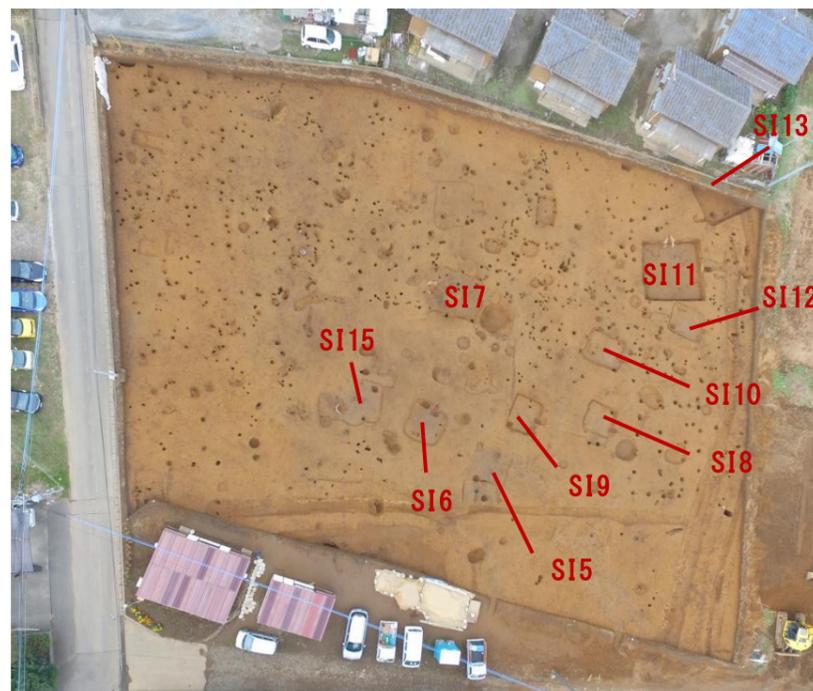


## 屋敷廻り遺跡の調査成果

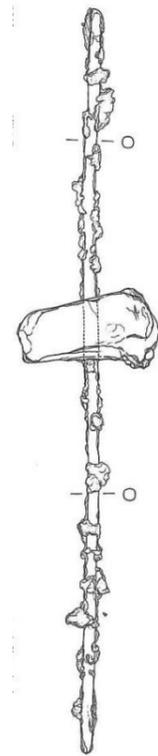
今回の調査では、奈良時代から平安時代の集落跡と中世（室町時代から戦国時代）の墓域が見つかっています。

奈良・平安時代の竪穴建物跡は 33 軒あり、ほとんどはカマドや炉があることから住居跡と考えられます。このうちカマドや炉が確認されなかった SI5・25・38 は工房跡と考えられます。建物の平面形も他の建物跡とは異なり、覆土には鉄滓が多量に混じります。また、SI13・16・18・20・22、SK35A・113 から紡錘車が出土していることから、紡績・織物の作業を行っていた集落跡の可能性もあります。

春内遺跡を含め郡家に近い立地から役所に関係した工房が集まっていたエリアとみられます。



1区調査区全景 航空写真



片野遺跡出土  
鉄製紡錘車

## ぼうすいしゃ 紡錘車

糸に撚りをかけるための道具で、鹿嶋では弥生時代以降の遺跡で見つかります。弥生時代のは土製ですが、古墳時代以降は石製で、直径 3~4cm、中央に穴が開いています。厨台遺跡群片野遺跡では鉄製も見つかっています。茨城県は紡錘車の出土量が多いことから、糸を紡ぎ機織りを行い、布を盛んに生産していたと思われます。

※遺構の解釈は平成 31 年 2 月 10 日現在のものであり、今後の調査や検討によって変更する可能性があります。  
資料の引用、掲載はご遠慮願います。

やしきまわ

## 屋敷廻り遺跡発掘調査現地説明会資料

調査場所: 鹿嶋市大字佐田地内

調査期間: 平成 30 年 6 月 18 日~平成 31 年 3 月 15 日

調査機関: 公益財団法人鹿嶋市文化スポーツ振興事業団

鹿嶋市どきどきセンター

調査原因: 都市計画道路宮中佐田線道路新設事業

日時: 平成 31 年 2 月 10 日(日)

事業主体: 茨城県潮来土木事務所

14:30~15:30

今回調査している場所は屋敷廻り遺跡に含まれ、鹿嶋神宮から南に 2.3km に位置し、鹿嶋台地の南端で鰐川左岸の標高 32~34m の台地上にあります。

屋敷廻り遺跡の周辺には鹿嶋郡の役所である鹿嶋郡家跡（神野向遺跡）や春内遺跡（製鉄遺跡）、新畑遺跡や中西遺跡など奈良・平安時代の遺跡が分布しています。また、台地の東側、谷を挟んで反対側には、国神遺跡や北台遺跡などが分布しています。

今年度に調査する範囲は 7,751 m<sup>2</sup> (1・2・3 区合計) であり、現在は 3,326 m<sup>2</sup> (2 区) を調査しています。



調査区周辺 航空写真 (西から)



### SK101 遺物出土状況

平安時代の土器廃棄の土坑と考えられます。土坑の底部には焼土と炭が堆積しています。



### SI33 遺物出土状況

竪穴建物の覆土中や床面から土師器の杯や甕、須恵器の杯が出土しています。



### SI32 カマド出土状況

竪穴建物の壁より内側に作られたカマドで支脚がみついています。



### SI21 遺物出土状況

竪穴建物の床面から4枚の須恵器蓋と土師器甕の破片が見つっています。また、覆土中層から下層には焼土や炭が分布しています。



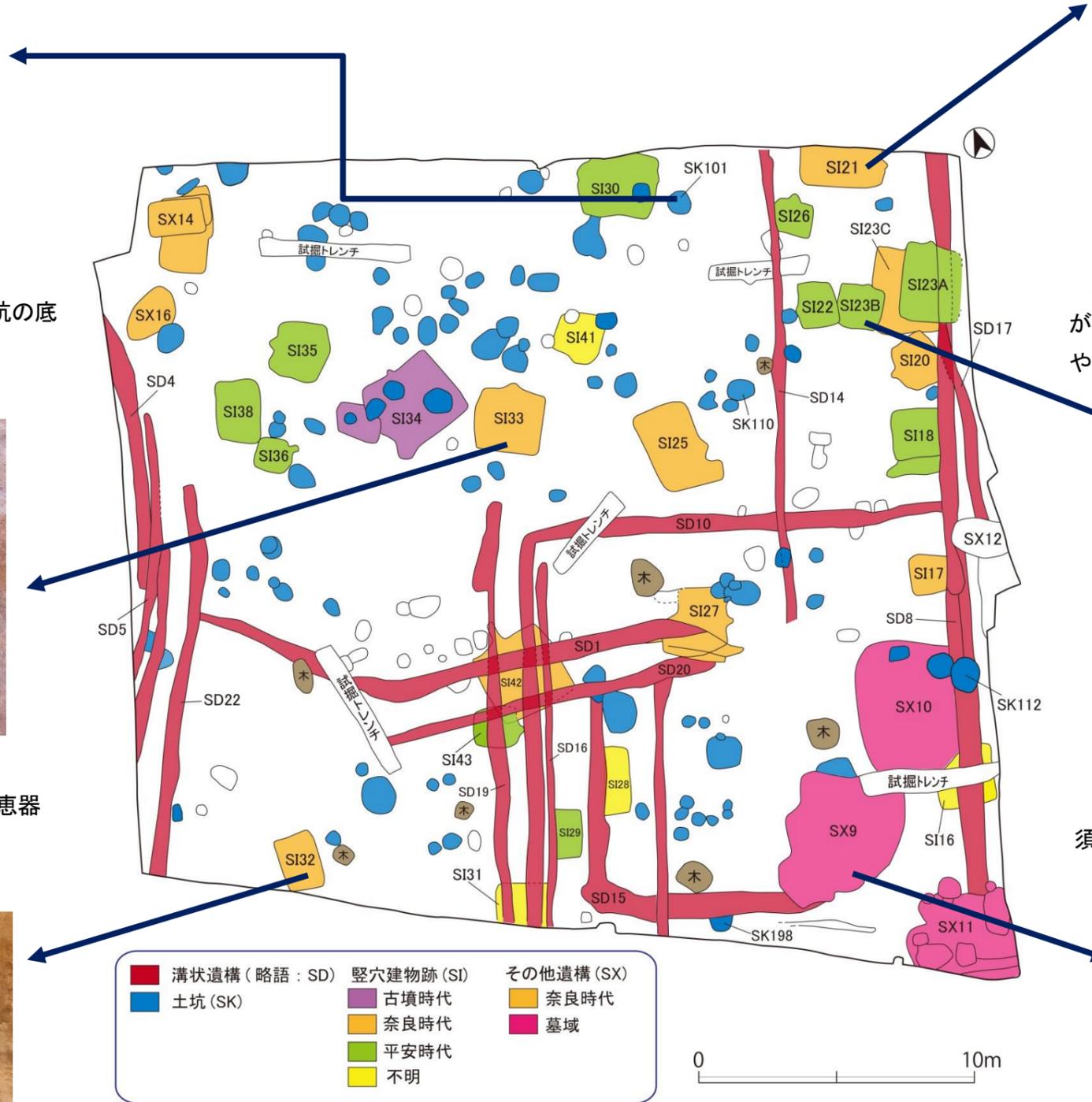
### SI23B 遺物出土状況

覆土中からたくさんの土師器片に混じって線刻のある須恵器高台杯が見つっています。



### SX9 遺物出土状況

段切り遺構とも呼ばれる中世の墓域が3カ所見つっています。溝で区画された中を一段掘り下げ、墓坑を掘っています。墓のタイプはさまざま、粘土を貼ったものや地下式坑も見つっています。



## 屋敷廻り遺跡(2区)遺構配置図